

総評

A委員	製品化技術も大事ではありますが、生産基盤技術やSQUIDレーザーなども大事に育ててほしいと思います。
B委員	基本的に技術をどこに、どうやって使うなどがはっきりせず、やりっぱなしのイメージが強いので、後処理が必要だと思います。前のプロジェクトとの相関性が薄いので、商品化をするためには、物にするまでのしつこさと頑張る姿勢が必要だと思います。
C委員	企業は、市場調査し、誰がお客様か、市場に対してのプランニングなどをしっかり立てています。始めに計画ありきで、それに対して実績を判断しています。ビジネスプランを常に持っています。そのようなところで技術センターに対して企業との考え方の違いを感じました。
D委員	研究に対してもっとしつこく、継続的に取り組んでほしいと思います。基礎研究もこれから大事になると思います。
E委員	最初に消費者ニーズの把握をしっかりとし、コンセプトをしっかりと立てた方が良いと思います。また、開発した成果を消費者にどう届けるのか、経済性も含めて考え、研究してほしいと思います。
F委員	ご用聞きというスタンスは良い制度なので、それを研究に浸透させてほしいと思います。県内企業と末永く付き合うのがセンターの役割です。そのためにもアフターサービスをしっかりとしてください。企業の中のキーパーソンと付き合う、例えば中小企業の社長などと話をしたりし、人脈も広げてほしいと思います。
所長	センターも企業同様、常に誰がお客様かを認識し行動して行きたいと考えています。そのためにも企業訪問を通して、ニーズにどこまで近づけるか努力し、キーパーソンとの接触なども考えてセンター運営をしていきたいと思っています。